

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290400124		
法人名	(株)ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター都賀 (2階)		
所在地	千葉県若葉区都賀4-10-18		
自己評価作成日	平成25年3月6日	評価結果市町村受理日	平成25年5月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	平成25年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの理念であるその人らしさを追及し、尊厳を保ちながら自立を促し、穏やかで喜びのある生活が送れるように支援しています。何より安心・安全なサービスの提供を基本としながら1人ひとりの生活歴に合った個別ケアに努めております。重度化・高齢化している中で8/27～提携医療機関も変わり、各居室での落ち着いた診療と必要時のご家族様への説明や訪問看護との連携など今まで以上に安心できる医療サポートを受けることができ、認知症の状態である方々の事実を受け止め感情に配慮しながら有する能力をできる限り発揮することができるよう支援しています。駅からも近くスーパーやドラッグストア・飲食店が多くあるので、入居者様と共に買い物など外出しています。地域の祭りへの参加や職場体験の受け入れなど地域との関わりを大切にしています。今年度は「クリーン・H24」とスローガンも掲げて、整理・整頓にも努めてきました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは現在、「パーソンセンタードケア」の実践を目指しており、利用者の視点や立場に立った支援についてケアカンファレンスの中で確認しているほか、内部研修を通じて「パーソンセンタードケア」の理解を深め、日々の支援に活かせるように取り組んでいる。今年度は提携先医療機関を変更し、主治医との連携の強化及び緊急時の対応や訪問看護ステーションと主治医との連携がスムーズになる等、医療機関との連携がより一層強化された。利用者の状態が変化していく中でも、これまでと変わらない生活が送れるよう、職員間のチームワークを強化し一丸となり取り組む姿勢が確認出来た。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の社是・経営理念だけでなく拠点独自の理念も事務所内に掲示している。毎朝の申し送りにて唱和している。	ホーム事務所内には社是、経営理念を掲示しているほか、ホーム全体において「パーソンセンタードケア」を目指しており、利用者の視点や立場に立った支援についてケアカンファレンスの中で振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のスーパーや理美容を利用している。自治会では回覧板をまわしている。散歩の時に会話したり、民生委員さんよりお尻ふきにでもと古いタオリをいただいた。	地域との交流では、ホーム主催の夏祭りに子ども太鼓のボランティアを受け入れ利用者との交流を図るほか、中学校の職場体験の受け入れ、地域の床屋や美容室の利用等を通じ、地域の方と触れ合う機会を提供している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生の職場体験学習で4名受け入れた。ホーム前で転倒された高齢者がいらした時、近所の方から介護の施設だと助けを求められた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの行事・トラブル・提携医変更など状況報告や話し合いを行い、ご家族様からの思いや意見を職員に伝えてサービス向上に活かしたりしている。	運営推進会議には、自治会長、地域包括支援センター、近隣のグループホーム職員、提携先医療機関、家族の参加を受け、2カ月に一度定期的を実施している。家族の参加も活発であり、様々な意見や提案を通じてサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	集団指導へは必ず参加している。千葉市高齢施設課からくる入居者状況や感染症などのFAXへは速やかに回答している。疑問点などはその都度、確認を行っている	市の担当課職員との連携に関しては、運営上の疑問点の相談のほか、集団指導への参加、実地指導においてアドバイスを受ける等、互いに連携し協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昼間は玄関の鍵はかけないで過ごすと共に、ホーム内も自由に移動できるようにしている。カンファで勉強会を行っている	身体拘束をしないケアの実践に向けては、ミーティング時に身体拘束廃止に向けた内部研修を実施し、職員間の意識を高めている。現状玄関の施錠も含め、身体拘束につながる事例は発生していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアカンファで虐待防止の講習を行い、必要時は朝の申し送りでも注意するよう、防止に努めている。		

ニチイケアセンター都賀(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアカンファで勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時は十分な説明とともに不安や疑問点にも応えている。改定時は家族会や手紙・電話などで説明を行い、理解・納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内から法人まで苦情窓口を重要事項説明書に明記して、契約時説明している。意見や要望に関しては面会や電話の他家族会などで表出できる機会を提供している	法人主体の顧客満足度調査の実施のほか、面会時やケアプラン説明時に家族から直接意向や要望を収集し、家族が気軽にホームに対し意見や要望を表出できる機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案は全体カンファや個別にて聞き入れ、必要時には支店までつなげている。	職員からの意見に関しては、毎月の会議時において収集しているほか、日頃から、各ユニットリーダー、管理者が個別に意見を収集し、必要に応じては職員面接を実施し、職員からの意見や要望等を直接聞き取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力や勤務状況に応じたキャリアアップや正社員登用制度を設けている。実践者研修や資格取得に対しての手当ても支給される		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で開催している研修は年間計画にあるのでシフト作成時に予定して参加の機会を確保している。社協など外部での研修にも参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県グループホーム連絡会が主催する研修や地域交流会に参加したりして、サービスの質の向上に取り組んでいる		

ニチイケアセンター都賀(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話を聞くことに重点をおきながら入居前のアセスメントを行い、不安や要望が何なのかを傾聴し理解することから安心できる関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や質問に対しては気持ちに配慮しながら傾聴し、丁寧に応えられるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接や内覧時によく話をききながら情報収集につとめ、本当に提供するサービスが妥当かつねに考えながら進めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何を食べたいかなど利用者様の意思を伺い献立に生かしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの生活状況を伝えるとともに、家族との絆を実感することができるよう、情報共有しながら支援している。必要な物品の購入や他科受診に関しても協力を得られている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話を取り次いだり、代わりにかけたりしている。またご家族様だけでなくご友人が面会に来られたときも落ちついて話ができるよう配慮している。	利用者の友人の来訪や家族の協力を得て専門外来への受診等、利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルが起こった時に間に入り寄り添い声かけをしている。会話に入りやすいようなきっかけ作りを行っている。		

ニチイケアセンター都賀(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された入居者様のレクリエーションへの参加を受け入れている。必要に応じてご家族様などからの相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	飲酒や喫煙などの習慣をなるべく継続できるようにしている。	利用者の思いや意向に関しては、日常会話からの聞き取りのほか、毎月介護相談員の方が来所され、利用者の意向や要望を確認している。また、ケアプラン作成時にはアセスメントにおいて、利用者の現状の課題や要望を個別に確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネジャーや家族、また本人に聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントツールを使用し状況変化を把握しプランにつなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医療的課題は往診時に家族に同席して頂いている。	ケアプラン作成においては、アセスメントで抽出した課題を踏まえ、フロア会議、担当者会議を通じ、職員、家族の意見を収集し、総合的な意見を踏まえたうえで作成している。ケアプランの達成度については定期的にモニタリングを行い、進捗の確認を行っている。	アセスメント結果の分析やケアプランで掲げている目標期間の取り方等、ホーム全体で統一できるよう、再度確認していく事も必要であろう。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態が安定しない時は特にポイントを定め介護記録特記に記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に伴い、福祉用具など他サービスとの連携を図りながらもご家族様と相談しながらより良い支援に取り組んでいる		

ニチイケアセンター都賀(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーへ買い物に出たり、美容室で好みの髪型にってもらったりしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の初診時は家族に同席を依頼している。受診記録のコピーを家族に手渡し状況共有に努めている。他科は家族の意向を伺い原則家族対応で行っている。	提携先医療機関による往診が定期的にあるほか、往診後には主治医から利用者一人ひとりの状況についてFAXを頂く等医療機関との関係は良好である。緊急時においても適切な医療や指示を受けられる体制を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフが気付いた状態変化を訪問看護で伝えている。訪問看護からの情報をかかりつけ医に報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先へ見舞いに行き状態把握に努めている。退院の前に医師との話し合いの場に可能な限り参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の際に「重度化にかかる指針」の説明同意を受けている。	重度化や終末期に向けた方針に関しては、「重度化した場合における対応に関わる指針」において、重度化や看取りに関する指針を説明し、家族の同意を得ている。重度化を向かえた際には、担当医、家族、職員間で連携を図り対応していくこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修にてマニュアルの見直しを行っている。救命講習を受けた職員がいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練の実施と運営推進会議での報告と意見交換をしている。	防災訓練に関しては、年間2回実施している。訓練では火災を想定した避難訓練、消火訓練を実施している。また、災害時に備え水やご飯、缶詰類の備蓄品を確保しているほか、安否確認システムを活用し災害時において本部に安否を報告できる体制を築いている。	今後に向けては、災害後において、ご家族に利用者の安否をどのように報告していくか、具体的な連絡体制が構築されていく事に期待したい。

ニチケアセンター都賀(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ポスター掲示や研修によるコンプライアンス遵守と個人情報保護トレーニングが毎年行われている。名前は必ず「さん」で呼び、プライバシーに関わる事は、ローマ字で話すようにするなど、言葉かけや対応に配慮している	全職員が法人で配布される「コンプライアンスカード」を所持しているほか、毎年定期的に個人情報保護トレーニングを行い、コンプライアンス遵守と共に、個人情報保護に関しても適切な管理が図れるよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	美容室に行きたい、○○を買いに行きたいとの要望に早急に対応できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴など声かけし同意を得てから実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧の手順が解らなくなってきた方に介助をすると「眉をもう少し長く」と本人が思い出しおっしゃる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りに興味がある方に食材切りや盛り付け、食器拭きを行って頂いている。	食事に関する一連の作業では、食事の準備や後片付けでは利用者の状態を考慮し、食器拭きやテーブル拭きなどをお願いしている。食材の買い物には、近隣のスーパーまで利用者と一緒に買い物に出かけている。外食や出前等も行い食事の楽しみにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は昼食後、おやつ後に計算をして医師の指示を守れるようにしている。糖尿病の方のカロリーを守れるようバランスモデルを作り朝食のカロリー計算、主食の計測を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の習慣に応じ声かけをしている。		

ニチケアセンター都賀(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録や本人のサインからパターンを見極め誘導している。	利用者一人ひとりの排泄状況に関しては、「介護記録」内に記録し、職員間で共有している。日中は定時の声かけや誘導によりトイレで排せつできるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	寒天ゼリーを取り入れたことにより下剤服用が減った。1500ccの水分量を維持できるよう声かけ促しをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人1人の入浴剤の好みをその都度聞いている。その日によって選べるのが楽しみであるとおっしゃる方もいる。	入浴に関しては、利用者の要望や体調を踏まえ一人ひとりのタイミングに合わせて入浴できるように支援している。入浴中は職員が介助につき、事故等の発生が無いように安全面にも十分に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後に疲労と血圧低下が現れる方がおり日中の休息を取り入れた。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬の中の下剤、利尿剤の袋の色分けをし医師の指示に合わせて調整できるようにしている。処方薬一覧表を個別にファイリングしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手芸が好きな方には材料の把握と準備をしている。以前行っていた仕事からできそうな作業を生活に取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年2回の外出レクの時に家族が参加協力してくださる。日常的に買い物や美容室へ希望時に付き添っている。	ホーム全体で外出計画を立て、近隣の公園や花の美術館等に定期的に外出している。日常的にも、ホーム周辺の散策や近隣のスーパーまでの食材の買い物など利用者の状態を考慮しながら職員と一緒に出かける事ができるよう支援している。	

ニチケアセンター都賀(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則ホーム管理となっているが家族の了承を得た上で希望された方自己管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった時に時間帯に配慮したうえで実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた装飾を担当月のレク係りが行っている。	利用者が集うリビングルームには、季節を感じられるよう装飾に配慮し、華やかな中にも落ち着ける環境となるよう努めている。廊下やトイレ、浴室の共用部分は清潔に保たれ、転倒の危険となるような物は放置せず、安全性にも配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	静の空間として廊下の奥にソファを設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になじみの家具をできる限り持参して頂いている。混乱が見られる方の家具の交換は混乱が最小限にできるよう家族に配置は変えないよう依頼した。	居室内へはこれまで使い慣れた物の持ち込みが可能で、家具類の配置についても利用者・ご家族と相談の上、危険のないよう配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室は理解しやすいようのれんや貼り紙をしている。居室毎に表札を設置している。		